

# モノづくり体感スタジアム2026



モノづくり体験を通じて親子のかけがえのない思い出を生む(昨年のモノづくり体感スタジアム)



日本の明日を支えるモノづくりの力。それを次世代につなぐために必要な知識は、教科書の中にある知識だけではない。自分の手で何かを創り出すときのワクワクする気持ちこそ、モノづくりの心だ。モノづくり体感スタジアムは、まさにその心の種をまく場所として、多くの親子に愛されてきた。会場を包む熱気は、日本の未来を育む

## 来月16日 大阪・堂島リバーフォーラム

### 企業・団体、多彩なイベント用意

「モノづくり体感スタジアム」が初めて開催されるデジタル化が進む今だからこそ、自分の手で何かを形にする手触りや、試行錯誤の末に機械が動く瞬間の感動は、子どもたちの心に一生残る「宝物」になるはずだ。モノづくり日本会議と日刊工業新聞社が贈るこの体験型イベントが、大阪という新天地において、日本の明るい未来を照らす新たな笑顔と夢の物語を紡ぎ出す。

5月16日、大阪の堂島リバーフォーラム(大阪市福島区)で「モノづくり体感スタジアム」が初めて開催される。デジタル化が進む今だからこそ、自分の手で何かを形にする手触りや、試行錯誤の末に機械が動く瞬間の感動は、子どもたちの心に一生残る「宝物」になるはずだ。モノづくり日本会議と日刊工業新聞社が贈るこの体験型イベントが、大阪という新天地において、日本の明るい未来を照らす新たな笑顔と夢の物語を紡ぎ出す。

# 工作・実験 子どもたちの一生の「宝物」

「モノづくり体感スタジアム」が初めて開催される。デジタル化が進む今だからこそ、自分の手で何かを形にする手触りや、試行錯誤の末に機械が動く瞬間の感動は、子どもたちの心に一生残る「宝物」になるはずだ。モノづくり日本会議と日刊工業新聞社が贈るこの体験型イベントが、大阪という新天地において、日本の明るい未来を照らす新たな笑顔と夢の物語を紡ぎ出す。

来場申し込みはこちらから  
モノづくり体感スタジアム 大阪への来場申し込みは二次元コードへ



隣で見守る保護者の優しいまなざしも欠かせない。プロの技術に親子で驚き、ともに手を動かす時間は、かけがえのない思い出となり、日本の技術への信頼と誇りを育む。帰宅後の食卓で「あの技術、スゴかったね」と語り合うひとりが、将来のエンジニアやクリエイターを生む大切なきっかけになるかもしれない。

**取適法にも対応**  
「企業成長にとって調達部門は営業や製造・生産部門と比べて花形部門ではないが、そこにこそ企業の競争力を根本から左右する」ということが、現場に足を運んで分かった。例え言う大企業のDX推進やAI(人工知能)導入などにあまりに安い食材で三ツ星



**大平 裕介 氏**  
リーナーテクノロジーズ社長  
「だが実際は、調達・購買部門の働き方は日々のさまざまな業務に追われ、何十年も変わっていないと感じた。大切な業務にもかかわらず十分投資されてきたかは疑問だ。今後人口減少もあり人手は間違いなく不足する。一方で、中小受託取引適法化(取適法)への対応も業務は増える。そこにテクノロジードリブ

# 調達部門の働き方革新に貢献



調達部門の革新につながるサービスは、製造業はじめ、さまざまな企業との共創で作り上げてきた...と話す大平さん

**見積もりプロセス 丸ごと見える化**  
「調達の中心業務は、複数のサプライヤーへの見積もり案件をシステム上相見積もり。依頼の送付で一元管理できる。見積りから回答の受領、比較検討の依頼の一括送付、回答の討、価格交渉、社内の設計、自動比較表作成、交渉経緯のログ蓄積まで、入力の最終的な発注まで、プロセス間がないよう設計した。今もメールやファクシミリ、ライヤーについても将来で行われている。当社の候補として大切な資産とな「リーナー見積」はこの。その交渉プロセス全体

**サプライヤーとの新たな関係を**  
「工場の手袋やユニホームなど、本業に直結しない消耗品・備品である間接材の購買を最適化するの「リーナー購買」だ。間接材の購買は単価が低く後回しにされがちだが、購買先が分散してコストが膨らみやすい。従来「入手かけて削減する」か「諦めて割高のまま買いつける」かだった。そこで取引するサプライヤーの商品を統合した「各社専用の社内モジュール」として立ち上げた。現場スタッフを検査・注文するだけで、自社の交渉済み価格や推奨商品が自動で適用される。購買担当者負担を軽減し、自然と最適な調達を実現する」

「リーナー」ネット」は、サプライヤーに企業規模をはじめさまざまな情報を提供してもらい、情報を一元化する。発注側は調査や調達の意思決定に使えるだけなく、これまで属人化しがちだったサプライヤーとのコミュニケーションを調達チームの誰もが共有できる。全てのログを残すことで中小受託取引適法化への対応も容易だ」

# 新たな日の出

# モノづくりの進むべき道

モノづくり日本会議

## 第23回 超モノづくり部品大賞

モノづくり日本会議と日刊工業新聞社は、日本のモノづくりの基盤を支える部品・部材を対象にした「超モノづくり部品大賞」を実施しています。

日本の産業界には、災害に強い国土の形成や環境・エネルギー問題の解決、さらなる顧客満足度の向上などに向けて、新たなモノづくりが求められています。技術革新や新市場創造には、優れた部品・部材が欠かせません。日本のモノづくりに寄与する卓越した部品・部材を広く募集します。

**募集期間** 2026年4月1日~7月10日

**応募方法** 右記URLより応募手続きを行ってください。 <https://buhin.awardsplatform.com/>

**表彰対象** 機械・ロボット 電気・電子 モビリティ関連 環境・資源・エネルギー関連  
健康福祉・バイオ・医療機器 生活・社会課題ソリューション関連

**発表** 2026年10月、日刊工業新聞と日刊工業新聞電子版、超モノづくり部品大賞ホームページなどで発表予定

**表彰** 優秀部品30件程度に「部品賞」を授与し、副賞を贈呈します。「部品賞」の中で特に優秀と認められたものには「部品大賞」を贈ります。「部品大賞」を受賞した部品は、部品の特徴や開発企業の想いを紹介する映像を制作し、贈賞式などで上映するほか、YouTubeなどで公開します。贈賞式は東京都内で開催します。

**お問い合わせ** モノづくり日本会議 超モノづくり部品大賞 事務局 TEL.03-5644-7608  
〒103-8548 東京都中央区日本橋小網町 14-1 (日刊工業新聞社内) e-mail:buhin@nikkan.tech



# MONO ZUKURI



主催:モノづくり日本会議/日刊工業新聞社  
後援:経済産業省/日本商工会議所/日本経済団体連合会

<https://award.cho-monodzukuri.jp> 部品大賞